

■皆さんからのご意見・ご提案

復興まちづくりについて	<p><del>・木材港に置かれている木材による二次災害が心配なので対策を考えてほしい。</del></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾に置かれている丸太により被害を受けた。対策を考えてほしい。</li> <li>・人材流出を防ぐため、雇用の確保が必要である。企業への支援も考えてほしい。</li> </ul>
-------------	--

■主な意見交換の概要

検討の進め方について	Q：検討会メンバーは、被災した地域だけから構成されるのか。	➔	A：磯鷄地域全域として考えています。
	Q：被災していない人の意見は反映されないのか。	➔	A：地区復興まちづくり便りを市全体に発行し、住民の皆さんから意見を募集します。
防潮堤等について	Q：防潮堤の高さは何mか。できるだけ高く整備してもらいたい。	➔	A：県の発表では海拔+10.4mとなっています。これにより明治三陸クラスの津波は防げると考えられます。
	Q：防潮堤の嵩上げに何年かかるのか。めどがたたなければ、家を建てられない。	➔	A：県で計画を検討中であり、現時点で何年かかるかわかりません。情報が入り次第、皆さんにもお知らせしたいと考えています。
道路等について	Q：文化会館の周辺など、避難場所や高台に遠いところからの避難はどうなるのか。	➔	A：津波避難ビルを整備して、一時避難できるように考えています。具体的な場所などは決まっていません。
	Q：磯鷄石崎あたりは、国道よりも周辺の土地が低くなっているのので、土地を嵩上げできないか。	➔	A：元の地形からそのような状況になっていると思われる。既に建物を再建している人もいるため、当面は嵩上げしない予定となっています。
復興パターン検討について	Q：移転よりも元の場所に住みたいと考える人が多い。	➔	A：防潮堤の整備や避難路の確保、強固な構造の建物にすることにより、元の場所に住めると考えています。ただし、今回被害の大きかった区域については、高台移転の可能性もあります。
	Q：高台等に移転した場合の、跡地の売却はどうなるのか。	➔	A：危険区域と想定され、移転する地域の全員が、売却するという合意が必要となります。
事業手法について	Q：非可住地や条件付可住地となる場所に、現在建っている建物はどうなるのか。	➔	A：非可住地に設定となった場合には移転をしていただく必要があります。条件付可住地に設定となった場合は、今後建替する際に構造規制などの適用を受けます。
	Q：高台移転地は借地ということだが、例えば、借地は払い下げるとはできないのか。	➔	A：高台の造成費は多くの費用がかかり、払い下げるときの値段が高くなってしまいます。現在、この問題への対策も国に要望しています。

## 2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

- (1) 「地区復興まちづくり便り」でお知らせしているように、現在各地区で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入っておりますが、そのことについて、あなたの考えをお書きください。

まちづくりの会の開催は歓迎します。被災した方々の意見を良く聞いて下さい。(まちづくりの会の委員には、被災した方が少ないと思います。) (80歳代 男性)

- (2) 地区の復興まちづくりに関連して、あなたのお考えをお書きください。

先般の市役所の説明では、神林地区は構造規制等条件付き住宅（パターンA）と非可住宅（パターンB）の案が出されましたが、神林地区の津波は、住宅の2階に達したところはないと聞いています。これは、津波が2m～3mぐらいだったと予想できます。今後、防潮堤が2m高くなれば今回の津波でもほとんど防げるものと考えます。このことから、神林地区を非可住宅とする案は不適切と考えます。 (80歳代 男性)

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	宮古市が港町である以上、防波堤の存在は無視できません。防波堤あつての復興があると思っています。
		神林地区の防潮堤の整備等早急に進めてもらいたいです。
		避難道路の問題も重要ですが、津波の通路があってもいいのではないかと。波を弱めるのも考えたらどうでしょう。
		防潮堤があるため大丈夫と思ひ避難しなかつた方も大勢いました。このため、防潮堤にお金をかけなければ、危機意識も高くなるのではないのでしょうか。
	水門	津軽石川水門は常時開放とする。水門で津波を抑えると周辺地域へ溢れることが分かつた。津波を上流に受け流すことで湾内の水位の上昇を抑えることが出来る。
	河川	津波を止めるハード面には限界がある。津波を受け入れ逃す河川の整備。
	国道等	国道45号の嵩上げ工事を望む。海が視認できない状態の箇所は、津波が来ても分らず非常に危険。
		三陸道の開通と盛岡ー宮古間の道路をもっと整備して1時間以内でいけるようにすれば宮古港の貨物取扱量が増えて活性化されると思う。
		三陸道路は、津波被害を受けないよう国道から独立させ、共用すべきではない。宮古地区だけでなく、全線津波浸水区域外に計画変更する。
		国道106号は迂回路がない部分が多く、土砂崩れで寸断されると宮古地区は陸の孤島と化してしまう。
	県道、市道	必要な道路をきちんと整備して、防潮堤を兼ねるべきである。
	避難路	藤原の神社に向かう道路を山田線が不通の内にトンネルを作って山に逃げやすくしたら高齢者も助かるのでは。
		線路の上の陸橋に階段を付けてもらえないか。より早く避難するには地域の構造も良く考えて復興に力を入れてもらいたい。
		近くには高台がないところでは、大規模でなくても石段を作って少し山合に入れる箇所とかあれば少々の間は何とかなるのでは。
公共施設	行政職員や、施設に大きな被害が及んでしまうと機能が全く働かなくなるので、中枢を担う機関は津波の及ばない個所への移転移設を検討するべきと思う。	
	宮古市民が一堂に会する所、市民文化会館を復旧させて下さい。	
公営住宅	仮設住宅を出た後、住居がないのでぜひ公営住宅をお願いします。	
	将来的には郷里の公営住宅に入居を希望し心身共に豊かな充実した暮らしを過ごしたいと思います。早期の宮古の復興と、公営住宅の新設整備をお願いします。	
復興まちづくりについて	将来像	宮古市がこれからの復興のモデルといわれるような、大胆な方針を検討して欲しいと思います。
		自然エネルギーや観光や水産業などを活性化して雇用を生み出し、若い人が住みたい!と思うような街にしてほしい。
		10~20年も経つと記憶は薄れ、放置しているとまた海岸近くに家が密集することになる。災害は繰り返さない復興を望む。
		宮古市の市街地を内陸部の開拓地に移転し、公共交通機関の駅や線路の変更、市役所、商店街及び高等学校の移転等、大規模な都市計画を考えてはどうか。
	漁港について	減災をめざし漁港の再編が必要である。
		漁業が復活しないと復興が難しいと思います。
		今回の津波による浸水地域が確認されたと思います。早い水産業の復興の為にも魚市場地域の整備、地盤沈下への対策を。
	情報提供	市外にやむなく住んでいる人も将来宮古に戻りたい人はいると思います。情報源が欲しいと思います。
		市の情報ははっきり正しく伝えてほしいです。話はいろいろに流れてどれが本当の話か、高齢者だけでいると不安です。
	復興パターンについて	県立宮古短大周辺の山を大規模に造成して、宅地を確保し、高浜へ道路を通して、孤立を防いでもらいたい。国道等も高台へ通したらよいのでは。
同じ場所に町を再建し大きな被害のあつた田老地区と同じ轍を踏んではならないと思う。昭和三陸大津波クラスの津波はいつでも来る可能性はある。		

大分類	中分類	意見
		堤防を高くし、できるだけ高台へ住み、水産物を守り復活させる。先祖は何度か津波にあってもこの地をはなれなかった。私達もそうしましょう。
		市役所は宮古駅の近くに移動して職員はJR、バス、利用。分散型のまちづくり希望。
		住環境と産業地域の分離で、安心できる住環境の確保と産業地域の集約化で、産業振興を図ってもらいたい。
		高台移設は無理がある。今までと違ったことをすることは嫌。地域性を重く見て復興より復旧の考え方が現実的である。
		住宅が半壊した地域は、防潮堤の嵩上げや補強を行い、居住可能地域とする。ただし、自力避難困難者は、津波浸水想定区域に居住してはいけない。
	防災対策	今回の大震災を教訓にする。津波浸水想定区域の見直し。避難場所の見直し。災害記憶の継承の取組み。防災の次に減災の取組みと市民の意識付け。
		防災無線が聞こえづらい。もっと大きな音で放送するなりスピーカーを増やすなり今後のためにお願いしたい。
		通信の手段としてトンネル等でのラジオの受信をできるだけ可能にして欲しい。国道45号、106号など、主要道路を走行していてもすぐ聞けなくなる。
		命だけでも助かるために、絶対に安全な避難所の設定。そしてこの津波を語り継ぐことはとても大事。
		磯鶏町内で石崎地区の死者が一番多かった。すぐ近くに山は私有地であるが一部分借り上げて一時的避難所を作れるのでは。
		和歌山にあるような立派な避難所を整備して欲しい。
		磯鶏地区をはじめ、市内に街灯が点灯していないところが多く、夜間避難時または防災・防犯上不安である。
		磯鶏、藤原地区などはそのまま家が建ってしまうような気がします。そうすると避難場所、避難所をしっかりした物にするしかないのではと思います。
事業手法について	高台移転	高台への大規模な土地開発が必要ではないかと思う。ぜひ高台への土地開発を願いたい。
		防波堤の再構築が駄目なら高台への移住も止むを得ないだろうと思っています。
		高台移住も良いですが、施設も併せて配置しないと年寄り是不便になります。
		次に住む家は、前住んでいた近くで、津波の心配のない所を希望します。店や病院の近い所を希望します。
	面的嵩上げ	一部の山を崩し、住宅地を造る。市や県の土地があれば、安く売るか借地として提供したらどうか。
	個別再建について	個人住宅、店舗復旧等の支援・補助に於ける対応が、今ひとつではないか。
		現在地に新たに家を建てる場合、2m位の盛土を望みますが、近所の半壊宅がそのまま修理して住んでいる場合、隣近所とのバランスがとれるのか。
新築した場合、二重ローンを考えるとできない。二年間の契約で借屋住まいだが、二年間で何とかしなければと課題はいっぱいある。		
		現在住んでいる所には不安はあるが新しく家を建てるよりは修復した方が、費用がかからないため、仕方なくというところもある。
浸水区域内の土地・建物について	利用	流出丸太により甚大な被害を受けた。港には丸太を貯蔵させない措置や住宅街への流出を防ぐための措置を二重三重に講じてほしい。
	既存不適	また津波の心配がある場所の自宅を自費で修理する気持ちにもならず、宮古市に住む事自体に疑問を持ってしまいます。
		今回の津波で住宅が全壊した地域は、居住禁止区域とする。ここ100年の間に、4回もの津波被害を受けている。守れない地域には、住んではいけない。
	売却	2年後に仮設入居者が自分の新たな生活拠点を築くのは難しいのではないかと。やはり代替地又は土地の買い上げといった政策が必要となってくる。
		同じ地域に宅地造成して、安く提供するか、土地交換とか土地の買い取りしてくれるとかを要望します。津波の来ない安全な場所に住みたいです。
	権利	代替地の土地がほしい。 土地・建物の評価を補償してほしい。